

1. 幼児・児童における未来型能力	必要な能力	「してよいこと、してはいけないこと」など善悪の判断
	なぜ未来型能力か？	「社会が理想とする人間像を目指して行われる人格形成」はどの時代の社会にあって普遍であり、人間の社会生活において不可欠である。社会における共通のマナーやルールを守ること、相手を思いやることといった道徳性を担っている。
	現状の把握 (当該領域のオリジナルデータ・知見)	割れたコップの絵を見せながら、女の子の行動を話しながら、その女の子が「いい子かな、悪い子かな、それはなぜ。」と尋ねた。 3歳児：どんなプロセスを経ているかにかかわらず、コップが割れたか、きれいになったかの結果のみで判断している。 4歳児：3歳児と同様に「いい子、悪い子」については多くの子どもが結果から判断している。しかし、判断に迷う子ども、質問がおかしいと感じた子どもも数名見られた。 5歳児：5歳児も結果から判断する子どもは多いが大人の善悪判断と同じように、因果関係を考えている様子がうかがえた。動機や努力したかどうかを評価の対象としていることが分かった。
2. 幼児・児童における未来型能力の育成	育成方法の提案・実施	1、役割演技の演者を保護者が参加し園児と共演する 2、心に響くお話を聞かせ自分の思いを表現できる 3、地域社会や保護者に開かれた保育をする
	育成カリキュラム実施の結果 (当該領域のオリジナルデータ・知見)	1、友達の気持ちが分かる 2、これは良いこと、これは悪いことに気づく 3、私のできることは何か
3. 未来型能力を指導できる指導者育成	現状の把握 (当該領域のオリジナルデータ・知見)	(幼稚園の指導者へのインタビュー) ①道具を独占的に使う子どもにルールを学ばせるにはどう指導するか？ ルールを学ぶことは日常の教育活動の中で指導を重ねることである。その際、ただ「守りなさい」ではなく意味づけをしっかりとすることである。また、決めたことが守れなかった場合は、許さないと毅然とした態度を一貫して取ることである。 大人がルールを守る姿を見せることと、保護者への啓発も必要である。 ②集団の中で聞く、話すルールを守らせるためにはどう指導するか？ 人の話は最後まで聞くように日ごろから指導する。話を最後まで聞かないで話をする子どもの発言は取り上げないようにする。よく話を聞く子どもを褒める。 ③看板に書かれている禁止されていることを破って行動する子どもに対する指導は？ ・なぜそのような看板があるか丁寧に説明したり、みんなで話し合う。みんなが約束を守らなかつたらどうなるかなどを考えさせる。 ・禁止されていることを破ることが①「わがまま」であるか、②「意図的」(わざと)であるか判断して、①の場合いけないと教え込む。②の場合原因を探り、その原因についての対処を考える ・このような行為は誰が、どのように困るか、具体的に考えさせる。
	育成方法の提案・実施	保育者の様々な場面での善悪の判断や価値基準が子どもに与える影響が大きい
	育成カリキュラム実施の結果 (当該領域のオリジナルデータ・知見)	してはいけないことはしっかり叱る。 公共でのルールを知る 人の迷惑に気付く